

## 【別紙】

### 「認知症グループホームにおけるケアの効果・評価に関する調査」の概要

#### 1. 目的

認知症グループホーム利用者の BPSD、QOL 等の改善にどのようなグループホームケアが有効であったかについて、具体的かつ客観的な調査を実施し、効果的なグループホームケアについての検証を行う。

#### 2. 調査対象者

- ・ 8月1日～11月30日の期間中に新規に入居した方で入居時点において BPSD を発症している方
- ・ 8月1日～11月30日の期間中に既に入居（3か月以上経過）している方で、1)新たに BPSD を発症した方、2)継続していた BPSD が重症化した方、3)別の種類の BPSD が新たに加わった方（BPSD 発症もしくは重症化、別の BPSD 発症の時点で入居期間が3か月以上経過していればよい）

(注)

- ・ 新規に入居した時点で既に発症していた BPSD が対象であり、新規に入居した方で入居直後から3か月経過までの期間に新たに BPSD を発症した方は対象外です。（入居から3か月以降に新たな BPSD が発症した場合は、既存入居者として登録願います）
- ・ 既に入居の方で上記期間中において8月時点で既に発症していた BPSD は対象外です。しかし、8月以降に NPI-NH に示す12項目に含まれる BPSD が新規に加わった場合は、その BPSD が対象となります。
- ・ 要介護度「4」「5」、障害高齢者の日常生活自立度ランク「B」、「C」の方は対象外です。

#### (参入要件（BPSD発症もしくは重症化の判断基準）)

- ・ NPI-NH検査12項目のうち、いずれかの項目において、頻度×重症度得点が4点以上の方  
（妄想、幻覚、興奮、うつ、不安、多幸、無関心、脱抑制、易刺激性、異常行動、夜間行動、食行動）
- \*上記12種類以外の BPSD は、評価項目がないので、調査対象に含まれません。

#### 3. 調査の手順

- 1) 調査協力事業所として FAX もしくはメールにて登録
- 2) 協会事務局より調査票等資料一式が送られてくる
- 3) 事業所職員（管理者等）が主観的に観察して、
  - ・ 「新規に入居した方で入居時点において BPSD を発症していると判断」もしくは、
  - ・ 「既に3か月以上入居の方で、1)新たに BPSD を発症、2)重症化、3)別種 BPSD を発症したと判断」した場合、その調査対象者に対して調査を開始。
- 4) 調査
  - ・ 調査票 A（事業所情報）→ 前頁②
  - ・ 調査票 A+（地域貢献評価尺度：事業所評価）→ 前頁②
  - ・ 調査票 B（入居者情報）→ 前頁②、③
  - ・ 調査票 B+（地域貢献評価尺度：入居者評価）→ 前頁③
  - ・ 調査票 C-1（NPI-NH検査）→ 前頁②、③  
→ 初回調査時、頻度×重症度得点が4点以上の項目が1項目もない場合には調査中止
  - ・ 調査票 C-2（BPSD+Q）→ 前頁②、③
  - ・ 調査票 C-3（QOL-D短縮版）→ 前頁②、③
  - ・ 調査票 C-4（パーセルインデックス：基本生活動作）→ 前頁②、③
  - ・ 調査票 D（BPSD気づき質問票） 前頁①、②

#### 4. ご協力に際しまして

- ・ 本調査の実施による、調査対象入居者ご本人の負担やリスクは一切ありません。
- ・ 本調査において、事業所で調査対象者に ID 番号を割り当てることで匿名化して調査票を回収します。そのため、調査対象者の個人情報および事業者名を研究者が知ることはありません。
- ・ ご協力いただけない場合でもなんら、不利益はございません。